

古今東西 くんくん 行きます!



郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします

市民図書館を訪問して、子どもの読書推進に取り組む皆さんにお話を伺いました。

本の楽しさを伝える

定禅寺通に面し、窓越しに緑鮮やかなケヤキ並木が見える市民図書館。この2階にある「おはなしのへや」をこ存じですか？靴を脱いで中に入ると多数の絵本に囲まれた温かい空間が広がっています。本は子どもたちの健やかな成長の大きな力になりますが、市内には子どもと本をつなぐ活動を続けていらつしやる団体がたくさんあります。



▲私も読み聞かせに挑戦。食い入るように聞いてくれると嬉しいですね

「みやぎ親子読書をすすめる会」は昭和46年に設立。「子どもの手の届くところに本があり、読んであげる大人がいつも周りにいる環境をつくりたい」と願い、読み聞かせなどを続けてきました。代表の酒井文子さん。自宅や集会所などで図書の貸し出しを行っているのは「仙台手をつなぐ文庫の会」です。代表の田澤敦子さんは「季節のお菓子作りや工作なども行っています。本を通じた触れ合いの中で子どもたちがほっとできる場になれば」と話してくださいました。「ランプ」は、テーマに沿った複数の本を一つのお話について紹介するブックトークを小・中学校で行うボランティアです。「面白いところを少しずつ、続きを読みたくなるようにお話しします。終了後に紹介した本に飛びついてくれると嬉しいですね」と代表の堀多佳子さん。図書館などでおはなし会の活動を行っているのは「おはなしぷーさん」。代表の横山祐子さんは「最近は乳幼児が多く、親子で一緒に楽しんで、リフレッシュしてほしい」と話してくださいました。皆さん、子どもたちが目を輝かせ聞き入る姿が嬉しいとのこと。本が好きで楽しいからこそ長年続いたのですね。

豊かな心を育む読書

0歳から本に親しむことは大切、でも本選びに悩む親御さんは少なくない

団体紹介

みやぎ親子読書をすすめる会



酒井文子さん

ブックトークボランティア「ランプ」



堀多佳子さん

仙台手をつなぐ文庫の会



田澤敦子さん

おはなしぷーさん



横山祐子さん

そう。赤ちゃんでも喜ぶ本は皆それぞれ。どんな本を喜ぶのか知るためにもおはなし会を利用してほしいとのこと。「読み聞かせの原点は、親の膝の上で一緒に読むこと。絵本を通して、親子で感情を共有しながら育っていくもの」と酒井さん。お気に入りの本を繰り返し読んでもらう中で感じる愛情や温もりが、親子のつながりを深めます。また、堀さんは「本は想像の世界を広げ、疑似体験ができます。自分が壁にぶつかった時も、想像して考えることが乗り越える力になることを伝えたい」と語ってくださいました。読書で培った力が生きていく上での礎になるのですね。最近では、読み聞かせをする男性も増えているとか。子どもの読書離れが言われていますが、周囲の大人が本の楽しさを伝えていくことも大切ですね。私たち子どもたちの読書環境が充実するよう、頑張っていきます！

